

(様式第1号)

研究No. (記載不要)	15 - 学 - 6
-----------------	------------

## 平成15年度配分 研究成果の概要

研究名	間伐材利用の地域連携デザインの研究(その1)				
配分を受けた 特別研究費	学長 特別研究費 2,400 千円				
研究者氏名 (代表者)	学部名	学科名	職	氏 名	共同研究の 場合の分担
	デザイン学部	生産造形学科	教授	鴨志田 厚子	研究総括
共同 研 究 者	デザイン学部	生産造形学科	教授	佐々木 亨	評価・改善
	デザイン学部	生産造形学科	教授	佐野 邦雄	評価・改善
	デザイン学部	生産造形学科	教授	野中 寿晴	評価・改善
	デザイン学部	生産造形学科	教授	仲山 進作	評価・改善
	デザイン学部	生産造形学科	教授	迫田 幸雄	評価・改善
	デザイン学部	生産造形学科	教授	伊坂 正人	評価・改善
	デザイン学部	生産造形学科	助教授	田邊 英隆	評価・改善, 事例調査
	デザイン学部	生産造形学科	助教授	黒田 宏治	研究推進, 事例調査
	デザイン学部	生産造形学科	助教授	佐井 国夫	評価・改善, 情報編集
	デザイン学部	生産造形学科	講師	迫 秀樹	研究推進, 評価・改善
	デザイン学部	技術造形学科	教授	高梨 廣孝	評価・改善
	デザイン学部	技術造形学科	講師	佐藤 聖徳	評価・改善
	デザイン学部	空間造形学科	助教授	鳥居 厚夫	評価・改善
発表の方法 (予定で可)	1 紀 要			号 数	第 号 ( 年 月発行)
	2 学会等での発表 学会等名: 芸術工学会 2004年度春期大会			発表日	平成16年6月19日
	3 その他 発表の方法:			発表日 (発表 予定日)	平成 年 月 日

注:配分を受けた翌年度の6月末までに提出

(研究の目的等)

天竜地域はじめ国内の林業地域では、間伐材利用方法の開発が、地域・産業振興に係る共通した重要課題とされている。そうしたなか、2004年の浜名湖花博に向けて、本学教員・学生も参加のもと、地元間伐材を利用する木製ベンチのデザイン制作事業が、主にユニバーサルデザインの視点から、進められてきた。

本研究では、その事業に対して木の文化・産業の視点も加えて、一過性のベンチ制作にとどまらず、間伐材利用をコアとした産学などの新たな地域連携システムのモデル化を図っていくことを目的とした。

なお、本研究でのケーススタディーの対象に選定した「浜名湖花博ユニバーサルデザインベンチのデザイン制作」プロジェクトは、2004年に浜松市郊外で開催の浜名湖花博に向けて、(財)静岡国際園芸博覧会協会、天竜市森林組合及び本学教員・学生グループの連携のもと実施されてきたものであり、実験的性格を有する地域連携デザインプロジェクトといえるものである。

(研究の実施方法等)

1. 間伐材利用の木製ベンチ案の評価・改善

浜名湖花博ユニバーサルデザインベンチプロジェクトにおいて平成14年度に作成された木製ベンチ案に対して、間伐材利用、木の文化性の観点からデザイン評価・改善を行った。

2. 間伐材利用の地域デザインシステムの事例調査

他地域で取り組まれている間伐材利用デザイン事例を調査・収集し、成功要因、実施課題の検討を行い、地域連携デザインシステムの構築について検討した。

尚、平成15年度には、十勝カラマツ王国構想、対馬ひのきデザインコンペなどについて情報収集・調査検討を行った。

3. 浜名湖花博ベンチデザインのプロセス情報の収集・整理

平成14～15年度にまたがる浜名湖花博ベンチデザイン事業の作業経過、段階毎の成果・プレゼンテーション資料、活動状況等について、関係情報・資料の収集・取材・整理を行った。(平成15年3月の花博会場内への設置まで)

(得られた成果等)

本学の関係した実験的な地域の産学官連携による「浜名湖花博ユニバーサルデザインベンチプロジェクト」の2年間にわたるプロセスの体系的な情報集約・整理を行うことができ、地域連携デザインシステムの1モデルとしての情報構築を図ることができた。

さらに、同プロジェクトを契機に本学にて芸術工学会開催につながり、地域連携デザインのテーマに具体例に関する討議、情報交換を行うことができ、本学の学術分野におけるプレゼンスを訴求することもできた。

また、同プロジェクトの実施、発表を通じて、①産学官と紋切り型では語りきれない地域連携システムのあり方や可能性についての試行が行えたこと、②デザインを軸にした地域連携への学生参加のあり方、成果の品質管理に課題が残されること、③大学が仲介機能を積極的に担うことにより新たな地域内関係性構築の可能性が生じること、④地域産業等に関する知識・情報を日常的に教育・流通させることの必要性など、円滑かつ効果的な地域連携デザインを実践するにあたって検討・解決すべき課題も具体的に明らかに抽出することができた。